## 作動中の固体高分子形燃料電池の内部を可視化する 「中性子超小角散乱・イメージング結合技術」

#### 日本原子力研究開発機構

### 小泉 智

#### 共同研究者

プトラアナンダ 岩瀬裕希 山口大輔 橋本竹治 前川康成 八巻徹也 澤田真一

#### 1-4 中性子超小角散乱・イメージング結合技術の開発

中性子による	横断的観察 <mark>見る</mark>	量子ビーム
$1 \text{cm} \xrightarrow{\forall p = x f - \mu} 10 \mu$	um← <sup>ミクロスケール</sup> → 1nm	子力機構 東海 研究用原子炉 <b>JRR3</b>
<b>ラジオグラフィ</b> ・セパレータ流路 ・マクロな水濃度の変化 世界に先駆け両者の同時	小角散乱法 ・膜電極接合体 (イオン伝導チャンネル、触媒) ・基材結晶構造、担体構造 ・水、水素イオンの動き 計測が可能なビームポートの構	<b>觜築</b>
〇作動状態にある同一の燃料電池単セルについて、ミクロスケールでの水、水素イオンの動き、及び、マクロス ケールの水分布を包括的に解析 〇宮思社な株、低知温佐香、燃料ボリズ株等の燃料電池セル要求特性と堕帯等との担間を分子し、ベルズ般明		
し高温耐火性、低加湿作動、燃料パリア性等の燃 加湿作動、燃料パリア性等の燃 加湿作動、燃料パリア性等の燃 の 加湿作動、燃料パリア性等の燃	料電池セル要求特性と腺構造との相関をガチレヘク 化技術として確立するためのモデル電解質膜の合成	<u>レビ阱明</u> <b>創る量子ビーム</b> 支 原子力機構 高崎
(多様なイオン伝導チャンネルサイズ・中性	生子に対するコントラストを有する膜の必要性)	放射線照射施設 TIARA



日本原子力研究開発機構 研究用原子炉JRR3 集光型・偏極中性子超小角散乱装置 (SANS-J-II)



# オングストロームから数マイクロメートルの 広範な空間スケールを満遍なくその場観測





# **Neutron Imaging System on SANS-J-II**

(Monochromatic & Polarized Cold Neutron Radiography)



同時計測 システム概要図

平成20年度8月完成











# 水・プロトンの動きを見る時分割中性子小角散乱

水素・プロトンの拡散

中性子に対するコントラスト変化 散乱強度の時間変化

拡散係数 D



M. Kim et al. Macromolecules 2006, 39, 4775-4787.

## 計算機シュミレーションとの連携による水・水素の動きの可視化

